

令和 7 年度 具体的な学校経営目標・計画

1 組織的な学力向上施策

岡山県立高梁高等学校 No.1

本年度の 重点目標		担当	目標達成のための具体的計画	達成基準	中間達成状況と評価			最終達成状況と評価		
					達成状況		評価	達成状況		評価
①	資質・能力を育成する R－P D C A サイクルの促進	教務課	各教科担当者が年間2回(各期末)、教科が設定する「生徒に身につけさせる資質・能力」に対する評価ループリックを用いて生徒自身による振り返りを実施し、資質・能力の育成状況を分析する。分析結果に基づき授業改善計画（P）を策定し、教科会議で共有・調整を行う。各教員は授業実践（D）後に相互授業参観で点検（C）を行い、改善策（A）を次期の授業に反映させる。	各教科が設定する「生徒に身につけさせる資質・能力」について、評価ループリックを用いた生徒自身の振り返りの結果、前期と後期を比較して平均数値の上昇で、下記の基準を達成すること。 A：前期＋4 0％ B：前期＋3 0％						
			各教科が設定している「生徒に身につけさせる資質・能力」を育成する授業手法について「改善する」を目的として年2回の公開授業を行う。第1回目は、各教科でテーマを設定し、教科内で授業を公開し、その後の検討会でフィードバックを行う。第2回目は、その改善内容を実践する公開授業を行う。外部アドバイザーを依頼し、助言をもらうことも計画する。	全教科でテーマに基づいた公開授業と検討会を行うこと。加えて、公開授業機関中に、教科内の授業見学だけでなく他教科の見学にも行き教科指導に活かすこと。 A：半数以上の教科で公開授業と検討会を年2回行うことができた。 かつ、個人の授業見学回数平均が2.0回以上 B：全ての教科で公開授業と検討会を年1回行うことができた。 かつ、個人の授業見学回数平均が1.5回以上 【参考】昨年度の公開授業・検討会 各教科1回 授業見学回数 前期1.0回 後期1.0回						
②	学力伸長を目指した指導の充実	教務課	各教科が設定している「生徒に身につけさせる資質・能力」を育成する授業手法について「改善する」を目的として年2回の公開授業を行う。第1回目は、各教科でテーマを設定し、教科内で授業を公開し、その後の検討会でフィードバックを行う。第2回目は、その改善内容を実践する公開授業を行う。外部アドバイザーを依頼し、助言をもらうことも計画する。	全教科でテーマに基づいた公開授業と検討会を行うこと。加えて、公開授業機関中に、教科内の授業見学だけでなく他教科の見学にも行き教科指導に活かすこと。 A：半数以上の教科で公開授業と検討会を年2回行うことができた。 かつ、個人の授業見学回数平均が2.0回以上 B：全ての教科で公開授業と検討会を年1回行うことができた。 かつ、個人の授業見学回数平均が1.5回以上 【参考】昨年度の公開授業・検討会 各教科1回 授業見学回数 前期1.0回 後期1.0回						
			学習実態調査の効果的な活用(モニタリング)と、教科担当からの成績層別の具体的な指示を徹底し、スタンダードに基づく家庭学習とくに土日祝日の学習時間の伸長を図ることで、学力伸長を目指す。	平均家庭学習時間の伸長が、下記基準を達成すること。 A：年度当初比＋2 0％、または昨年度比＋3 0％ B：年度当初比＋1 0％、または昨年度比＋2 0％ 【参考】昨年度からの1日あたり家庭学習時間（分） 新1年次(普)今年度当初：124 (家)今年度当初：61 新2年次(普)昨年度平均：140 (普)今年度当初：133 (家)昨年度平均：85 (家)今年度当初：105 新3年次(普)昨年度平均：149 (普)今年度当初：171 (家)昨年度平均：103 (家)今年度当初：94						

2 体系的・系統的なキャリア探究プログラムの充実

本年度の 重点目標		担当	目標達成のための具体的計画	達成基準	中間達成状況と評価			最終達成状況と評価		
					達成状況		評価	達成状況		評価
③	ICTを活用した文理横断的・探究的な学びの強化	進路課	統計スキルの取得とその調査・分析への活用を支援するとともに、生成AIを効果的に活用することで探究活動の内容をより充実させられるよう支援する。そのために必要なスキルを獲得するための教員研修を充実させる。	生成AIに関する教員研修と研修内容の理解度調査を実施する。 A：研修回数3回以上または、内容理解度において満足（4点以上／5点）と回答した割合が8 0％以上 B：研修回数2回以上または、内容理解度において満足（4点以上／5点）と回答した割合が7 0％以上						
			教員の進路指導に対する視座や見識の向上を目的とした小規模研修を実施することによって、生徒の社会とのつながりを意識した志望形成および学習意欲の向上につなげる。	自らの進路希望に関して、「なぜ、その進路（分野）を選んだのか」ということを具体的に言語化（レベル1⇒レベル2あるいはレベル3 またはレベル2⇒レベル3）できるようになった生徒が A：年度当初比＋3 0％ B：年度当初比＋2 0％ 【参考】レベル1（具体的ではない） レベル2（少し具体的になってきた） レベル3（具体的に明確になってきた）						

3 グローバル教育の充実

本年度の 重点目標		担当	目標達成のための具体的計画	達成基準	中間達成状況と評価			最終達成状況と評価		
					達成状況		評価	達成状況		評価
⑤	国際交流プログラムの進化	教務課	異文化理解の促進と英語コミュニケーション能力の向上を目標として、つぎのプログラムを計画する。 ・台南市私立港明高級中学との姉妹校提携の締結と第1回訪問を12月に実施し、今後の交流プログラムを構築する。 ・NIHS、港明高級中学両校とのオンライン交流の機会を増やし、より多くの生徒に交流機会を提供する。 ・NIHSとの中期留学プログラムを再開し、継続的なプログラムとなるように内容を整理する。	プログラム後の自己評価項目として、「①異文化に対する理解が深まったと感じますか？、②異文化の仲間と協力することの重要性を理解しましたか？、③異文化との交流によって、考え方や価値観が変わったと感じますか？、④英語でのコミュニケーションが以前よりも容易になったと感じますか？、⑤国際交流を通じて、英語を使う自信ができましたか？、⑥国際交流を通じて、自分自身の成長を感じましたか？」の質問を行い、 A：①～⑥の全ての項目で8 0％以上の肯定的回答 B：①～⑥の全ての項目で7 0％以上の肯定的回答						

4 主体性・個性を伸ばす指導の充実

本年度の 重点目標	担当	目標達成のための具体的計画	達成基準	中間達成状況と評価			最終達成状況と評価		
				達成状況	評価		達成状況		評価
⑥	一歩前へ踏み出す生徒の支援	生徒課	生徒会が中心となって、学校生活における課題や改善点について「目安箱」などを活用して全校生徒の意見を吸い上げる。その意見を元に改善策を立案・実行できるよう生徒会に対して関係教職員は助言・環境整備を行うことで生徒の主体的な取り組みを支援する。	生徒会が自分たちで提案した改善点を学校に提案し改善することができた。 A：提案した改善点の60％を達成できた。 B：提案した改善点の40％を達成できた。					
		家政科	・生徒自身が考えて決定し、行動できる活動場面を増やす。 ・家庭科独自の校内行事（家政科展や家政科集会）や産業界や行政の協力を得ながら行っている活動を通じて、生徒が主体的に活動できるよう支援する。	生徒が考えて行動でき、生徒主体の活動ができた。 A：生徒アンケート 80％以上が肯定的な回答 B：生徒アンケート 60％以上が肯定的な回答					
		教務課	生徒一人ひとりが自らの可能性を広げ、社会に貢献できる人材として成長することを狙いとして、将来のキャリア形成に繋がる多様な経験の場（資格取得・コンクール・国際交流・ボランティア等）を提供する。資格取得については、英語科と連携をして英検受検者を増やす。コンクール・国際交流・ボランティア等についてはポータルサイト・classroomを利用して生徒への周知を徹底する。	1 英検チャレンジャーが昨年度比+10％ 2 コンクール・国際交流・ボランティア等へのチャレンジャーのべ人数が昨年度比+10％ A：1, 2ともに昨年度比+10％のチャレンジャーがいた。 B：1, 2のどちらかで昨年度比+10％、かつもう一方で+5％のチャレンジャーがいた。 【参考】R6年度 英検 のべ70人 国際交流イベント10人、ボランティア9人					
⑦	新しい時代の学びに対応した学習環境の整備	制服検討委員会	・「選択できる制服・多様性」をコンセプトに令和8年度から新たにポロシャツ等を導入し、本校らしい制服について検討する。 ・オープンスクール等で新制服スタイルの着こなしについて新入生や保護者に周知する。	A：新しい制服スタイルについて検討でき、在校生や新入生や保護者に周知できたうえで令和8年度より新制服スタイルに移行することができた。 B：新しい制服のスタイルが決定し、夏秋オープンスクールで新制服の紹介を行うことができた。					
		事務室	・グループワークに最適化し、ICTを活用した探究活動が実施できる設備を配備したスペースを整備する。 ・海外の生徒との交流や会議・講演会等、オンラインでの交流で世界とつながることができる設備を配備したスペースを整備する。 ・面談、質問対応、小論文・面接指導等、個別指導ができるスペースを整備する。 ・個別ブースがある自習スペースを整備する。	A：4項目全てを整備することができた。 B：3項目整備することができた。					

5 学校からの情報発信の進化

本年度の 重点目標	担当	目標達成のための具体的計画	達成基準	中間達成状況と評価			最終達成状況と評価		
				達成状況	評価		達成状況		評価
⑧	全県学区に対応する戦略的な広報活動による生徒募集	総務課	対面とオンラインを使い分け、全県学区への効果的な広報を工夫する。具体的には、高梁高等学校の魅力を具体的に伝えるために、生徒自身が「在校生の声」を、ブログで発信する場面を作る。	在校生が、学校の様子をブログで発信する。 A：年間10回以上の実施 B：年間5回以上10回未満の実施					
⑨	地域・保護者の学校理解の促進	総務課	保護者や中学生等に本校HPによる情報発信を周知する。情報発信に関しては、学校教育活動の意義や生徒の成長過程を伝えることを意識し、学校への理解を深める内容とする。さらに、HPの閲覧数を定期的に把握し、ニーズに応じたコンテンツの見直しを図る。	HPのブログの更新等を積極的に行うことで、HPのアクセス数を昨年度より増加させる。 A：昨年度比+5％（約2,000回）以上 B：昨年度比0％～+5％未満 【参考】令和6年度月間平均アクセス回数41,064回					